

## 吉備路を旅して

西川 邦彦



備中松山城(高梁市)

大阪歴史博物館友の会の研修旅行が10月14日～15日で行われた。14日朝7時30分、21名が大阪歴史博物館に集合し、定刻の8時前に大川観光バスで岡山へ出発。ところが出発早々いきなりハプニングが発生した。仲間の一人がリュックがないとのことで、バス車内を探したが見つからず、バスは近くを一周して再び博物館へ。ここで荷物を探すため一人下車し、改めて20名で8時に再出発。好天に恵まれ、途中は渋滞もなく吉備路に到着して吉備津彦神社、吉備津神社を見学。長い回廊に感動して駐車場に戻ると、今度はバスがない。何と朝に荷物を探すために下車した仲間がのぞみに乗って追いかけてこれ、近くの駅までバスが遅えに行ったとのこと。やがてその仲間を一人乗せてバスが帰ってきた。どうやらリュックは地下鉄の網棚に載せて忘れ、生駒まで行っていたようだ。リュックも届いて、改めて21名全員揃って高梁へ向かって出発。車内では、下車

してからのぞみで追いかけてこられた行動の見事さに一同感心して話題となった。

高梁では昼食後、地元の備北バスに乗り換えて備中松山城へ登城。地元の案内人の先導で駐車場から標高460mの松山城へ約700mの階段と急な坂道を一服しながら登って天守閣へ到着。自然の岩盤の上に見事な石垣を積み、その上に二重の天守閣が築かれていた。昔の人の巧みな技に一同感心していると急に雨が降り出し、あわてて天守閣に入ると、やがて雷雨となり本降りとなった。傘、傘は持参してきたが、バスを下車したときは青空がでていたため全員バスに置いたままで、しばし天守閣で雨宿りとなった。その後、高梁市内の武家屋敷と頼久寺を見学。頼久寺では小堀遠州作庭の大対り込みに感動して、今宵の宿、神原荘へ向かった。バスは市内を抜けて、とんとん山奥に入って行き、ゴルフ場近くの神原荘へ着いた。夕食後は相部屋の仲間と楽しく語り合っただけで就いた。

二日目は綺麗な秋晴れで、バスは霧の中を高梁市内へ降りて行き、一路総社へ向かった。総社駅で岡山大学の松木先生と合流し、先生の案内で吉備の古墳見学がはじまった。先生から立派な資料をいただき、宮山弥生墳丘墓、造山古墳を経て、こうもり塚古墳を訪れるコースである。こうもり塚古墳近くでは吉備国分寺の景色の好いのに満足。さらにこうもり塚では鍵を開けてもらって玄室の中へも入れていただいた。石棺も残っており、大きな石が使われていることに感動しながら先生の説明に聞き入る。古墳が三段に造成されていることもよくわかり、こちらも大満足だった。

昼食後は最後の訪問地足守へ向かった。足守では地元の案内人を見て、誰かがミヤコ熊さんと名前をつけたが、本当によく似た人でなかなか案内も面白く、陣屋・堀方洪庵の生誕地などを案内してもらい、醤油屋ではそのうまい案内で醤油を買う人もいた。最後に足守の洪庵茶屋で熊々さんお蔭のメロンジュースをほとんどの人が飲んだが、宣伝どおりなかなかおいしいジュースだった。

これで足守と別れて一路大阪へ向かった。途中阪神高速で少し渋滞はあったが、ほぼ予定通りの18時30分に大阪歴史博物館に無事到着した。天候にも恵まれ、大変楽しく有意義な旅であった。今回の旅行を企画していただいた会長さんをはじめとする幹事の皆様に大いに感謝し、仲間とまたの再会を約して家路についた。



造山古墳にて松木先生の解説を受ける

## 国生み神話の地 オノコロ島を探す旅(その2)に参加して

勝倉 孝

9月13日(日)8時30分、歴博前を時間通り出発。天気は前日の雨と違って変わり晴天、秋の風がさわやかな絶好の行楽日でした。参加人数70数名、今回も盛況でした。

まず、最初は淡嶋神社。葉の神様で婦人病や安産・子授けにご利益のある女性の神様です。ひな流しの祭りでも全国的に有名。境内は奉納された2万体の人形に囲まれ、圧倒されます。ガイドの話で面白かったのは、昭和30年代には参道の両脇に男性のシンボルがズラリと並び、異様な雰囲気だったそうです。夫の浮気防止のために奉納されたとのこと、昔も今も男と女の悩みは変わらないのですね。

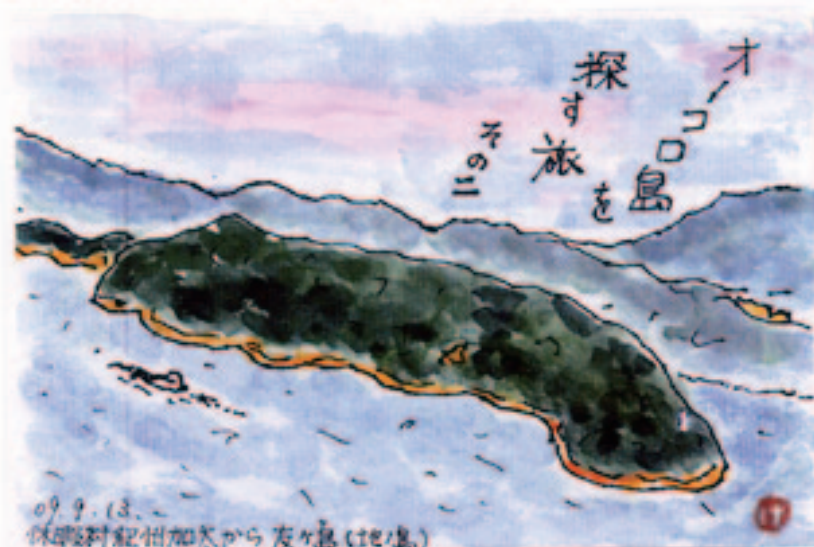
次に深山砲台跡へ。山道を登ると旧陸軍の弾薬庫跡・砲台跡に出ます。レンガ造りの立派なもので、複雑怪奇な迷路のような弾薬庫は忍者屋敷のようでした。

次は昼食。休暇村紀州加太のレストランでオリジナルの鯛漬け丼、加太名物の鯛を白醤油に一晩漬けておき、ご飯にのせた丼です。これがうまい。上品な甘さとやわらかい歯ごたえ、もう一度たべたくなる美味でした。隣の方もおいしかったと言っていました。

午後から船で友ヶ島へ20分。友ヶ島の道は整備されておらずアップダウンもきつい道でした。途中までは全員で行き、さらに急坂のタカノス展望台へ行く組と港へ戻る組に分かれました。今までも急坂だったので帰る方が多いのかと思いきや9割の方が山頂まで行かれたのはびっくりでした。友の会会員は元気な方が多いと驚きました。展望台の眺めは眼下に紀淡海峡、左から淡路島、明石海峡大橋、須磨の海岸、六甲の山々等を堪能できました。帰りは島内最大級の砲台跡の第3砲台跡を見ながら下山し、加太港へ帰路につきました。



友ヶ島から淡路島を眺望する



スケッチ・市ノ瀬けい子さん

友ヶ島がオノコロ島といわれる理由は仁徳天皇の歌に「難波の岬に立って私が領有する国を見ると淡島、オノコロ島が見える」と歌っているからだそうです。私は友ヶ島のひとつ神島が大和三山の畝傍山に似ているように見え、古代の大きなロマンを感じました。

最後に、今回お世話になったガイドさん、時間どおりに大汗をかきながら大変興味深い話をしていただきありがとうございました。前回と今回、2度のオノコロ島を探す旅に参加し、「古事記」「日本書紀」による日本誕生の深遠さに思いをはせた感慨深い1日でした。

## 中之島公会堂・日銀大阪支店を訪ねて

上田 光次

6月に造幣局で貨幣の製造の様子と新装なった造幣博物館の展示見学があり、参加いたしました。それに続く講座として紙幣を取り扱う日銀大阪支店と、大阪の近代建築の代表作のひとつである中之島公会堂の内部見学が9月29日(火)に行われました。見学先の日銀大阪支店の事情で平日の見学となり、また定員40名という限定がありましたが、幸いにも参加させていただきました。

午前中は中之島公会堂の内部見学があり、公会堂職員の親切なご案内により改装なった館内を見学いたしました。この公会堂は大阪の岩本栄之助氏個人の寄付金によって建てられたとうかがって大変驚きました(総工費は現在のお金で50億とか100億円の由)。建築当初のままの装飾が保存されている部屋や客席もあり、また地下には最新の技術を取り入れた耐震設備により、建物保全に努めている由にて大変感心いたしました。

次に午後1時すぎから日銀大阪支店の見学に参りました。入口で「見学入館証」の札を各自首にぶらさげ、まずは日銀職員よりガイドブックを受け取り、日銀の業務等説明を聞きました。館内見学の案内が始まりましたが、各部屋の様子は改装前の室内装飾をそのまま活かした明治時代創業当時の価値ある立派なもので、興味をもって見学させていただきました。また、紙幣の偽造防止技術について説明があり、平成16年11月には日銀券(一万円・五千円・千円)について偽造に対する対策を強化するために改刷(銀行券のデザインを一新すること)が行われたそうです。さまざまな偽造防止技術が使われており、大変勉強になりました。

今回の見学会で楽しく学習できたことに感謝しております。これからも機会があれば各種講座に参加したいと考えています。事前準備と当日の引率・案内をしていただいた幹事さんにお礼申し上げます。



中之島公会堂特別室にて



日銀大阪支店にて



連載

# 「浪花百景」～あみだ池～

第11回

千倉 康由

あみだ(阿弥陀)池は元禄11年(1698)開創の尼寺和光寺の通称であり、境内の池より善光寺本尊が出現したといういわれに因んで建立されました。建立当時は1800坪もあり、明治の頃には境内に料亭がありました。

本堂、講堂等は昭和20年3月13日の大空襲で全て焼失し、現在の堂宇は戦後のものです。境内のあみだ池だけは、歴史に耐えて今に姿を止めております。

上方落語「あみだ池」でもよく知られておりますが、阪田三吉と関根金次郎名人との宿命の対決も、この境内の藤の茶屋で行われたといわれています。

当和光寺は地下鉄西長堀駅から徒歩から近く、いつでもご覧になれます。



現在の阿弥陀池



## 豆ちしき

### 豊臣期武家屋敷のおもかげ

歴史博物館の場所が豊臣期の武家屋敷であったことは以前にご紹介しましたが、ほかにも発掘調査でこの時代の武家屋敷跡が見つかった例があります。このうち今でもその面影をしのぶことのできる場所を紹介します。

場所は土佐堀通沿いの天満橋と天神橋の間、府立労働センター(エル・おおさか)が建っているところです。ビルの東側の道をすこし進むと、南館の入口前に1987年度の発掘調査で見つかった武家屋敷の門と塀の遺構が移築復元されています。発掘では桔梗文の鬼瓦も出土しており、豊臣秀吉の有力家臣だった加藤清正のものではないかと考えられています。この地をふくむ大川沿いの一帯は、武家屋敷の建ち並ぶ区画であったようですが、今ではそれを思い起こさせるものは残っていません。そうした中でここは、移築復元とはいいいながら、豊臣期の大坂をしのばせる数少ない場所となっています。

表通りからはずれていることもあってなかなか気づきにくい場所ですが、館内に展示コーナーもありますので、博物館に来られたときにでも、ちょっと足を伸ばしてみてください。(豆谷)



## 編集後記

新型インフルエンザの猛威も衰えず、さらに季節性インフルエンザの時期を迎えてしまいました。皆さまのご家族・お知り合いの方はお変わりありませんでしょうか。今年も早12月を迎えましたが、今年も友の会行事は多くの会員さんにご参加いただき、どれも盛況でした。幹事さん、事務局ともうれしい悲鳴をあげながら毎回準備を進めています。来年も継続中の事業をはじめ、さまざまな取り組みが予定されています。ご期待ください。(大澤)